

# CV50E BELUGA

1981年 / 市販車

1980年代前半は、オイルショック後の不況からの脱却や技術革新による日本製品の世界的な高評価によって、経済の好況感が日常生活にも大きく影響を及ぼした。

そのような市場環境に向け、余暇時間の増大、クルマとバイクを使い分ける「6輪ライフ」の拡大を背景に開発された、男性向けの本格派スクーター。49cc 空冷，2ストローク，単気筒，エンジンは 最高出力3.8PS/ 6,000r/min という性能であった。

機械部分の露出をなくしたフルカバード外装、ゆったりしたステップスルーのスタイリング、オールビルトインの灯火類、快適でソフトな足まわり、省エネ・低騒音に配慮した吸排気システムなど高級感のある作り込みが施された。

デザイン面では、レッグシールドを通常単体パーツのところ、

前後2枚のパネルで構成することで高級感を演出している。

また、車体シルエットは情緒的表現を極力抑え、

精度感や合理性を持たせた知的な印象にまとめている。

ヤマハの量産スクーターとして初採用の

CVT(V ベルト自動無段変速機構) は、スクーター領域で発展し、現代の YCC-AT( 電子制御 CVT) へと繋がるキーデバイスである。

